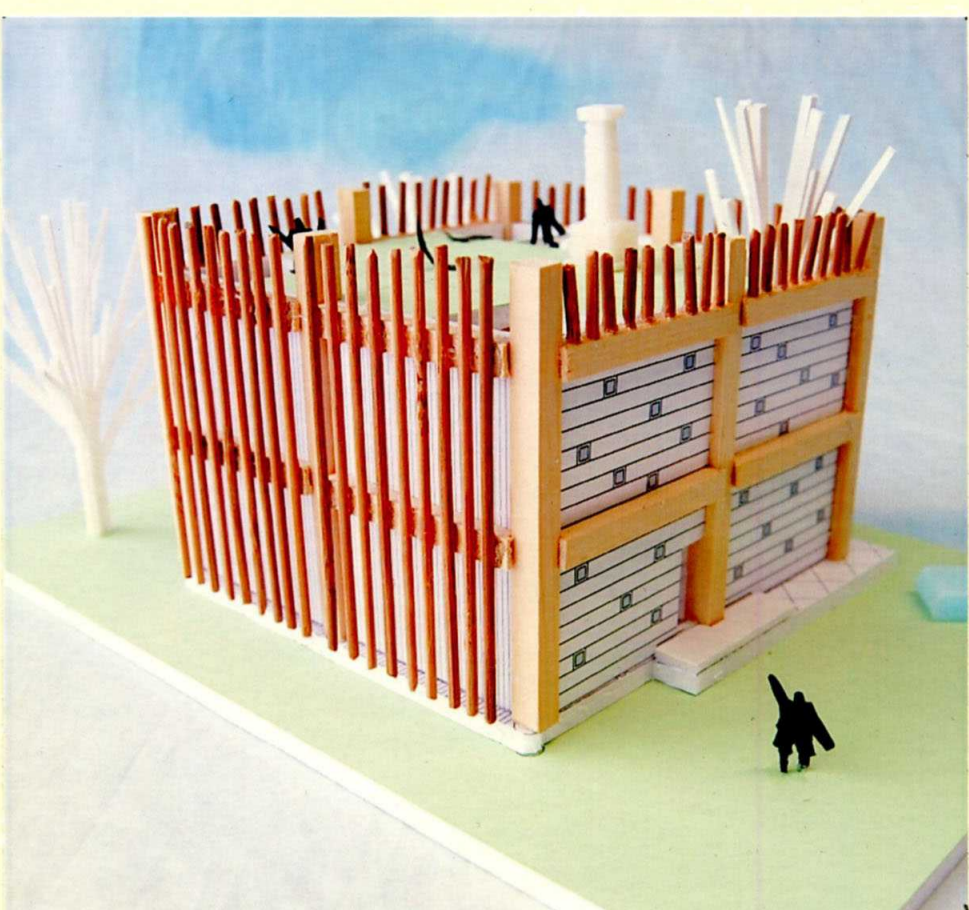


木材の地産地消は、超省エネ。

高度経済成長期、全国的に木材需要が逼迫し、日本では、輸入木材の全品目を自由化し、木材需要に対応しようとした。しかし、安価な輸入木材が大量に輸入されるようになると、割高な日本の木材は売れなくなり、近年、日本の木材自給率は18%と大低く、日本から8000キロメートル以上離れた国から輸入する割合が40%以上に非常に高い現状です。輸送のために使用される膨大な燃料消費量や、輸送過程に発生する二酸化炭素排出量は、自然環境に大きな影響を及ぼし続けており、「エコ」に逆行する社会問題となっています。

「エコな材料」は、地産地消の木材。
古くより日本人は「里山」や「雑木林」に代表されるように、自然と共に暮らしてきました。山や森は、人間による定期的な間伐や伐採のおかげで、林の奥や根元に太陽の光が届くようになり、生態系豊かな健康な状態を保っていました。しかし、国内の著しい林業の衰退と共に、人の手が入らなくなった多くの山や森は荒れ果て、大きな悲鳴を上げています。今回「エコな材料」は地産地消の木材であると考え、地元の木材を地元で消費する「地産地消」の提案と、人間と自然との共生方法や、木材消費が生み出す森の環境保護を提案致します。



木材は「エコ」な材料で、長寿命。

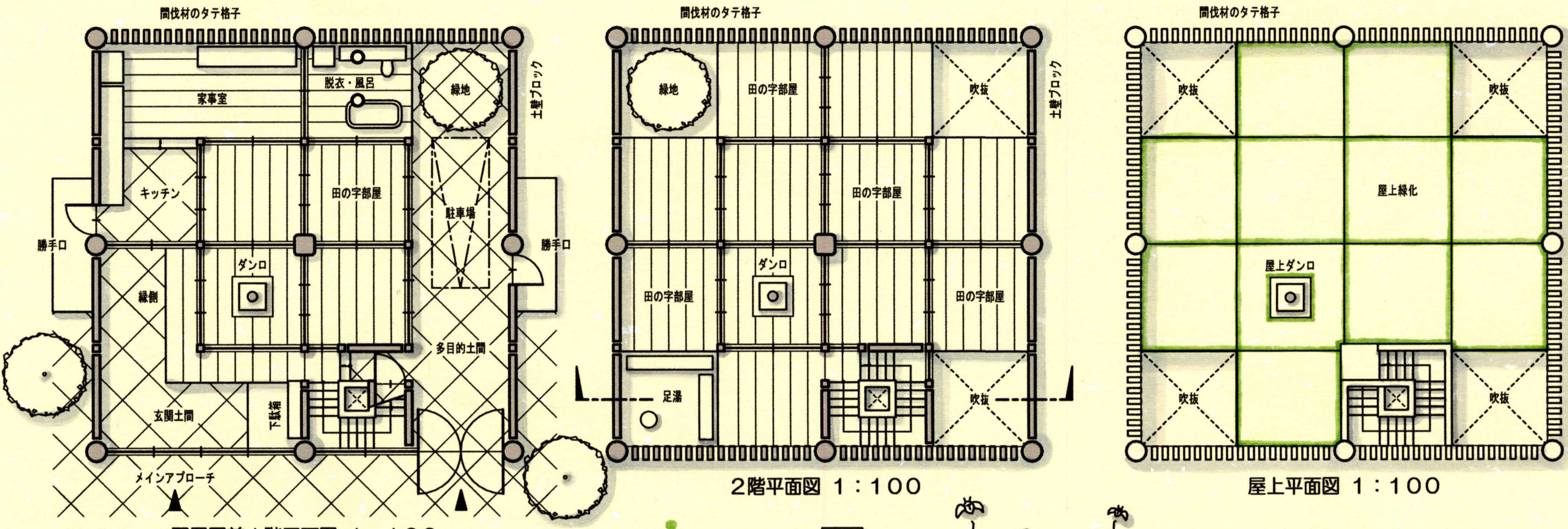
木材は古くから建築材料に使用されており、数百年前の太い柱が現在でも目を集めて、使われていることが少なくありません。木材は人の気持を癒し、使っていることが「長寿命材料」です。太い柱や太い梁は、増築や改築や移築などに何度も耐えることが出来るうえに、金属とは異なり、自由な場所に釘やボルトを設置することが出来ます。また、加工をほどこし、大きな梁や間仕切りを取り付けることも可能です。太くて大きな柱と梁を持つこの家は、家をきくしたり、小さくしたりすることが、簡単にできるのです。増築や改築に十分に対応出来る「エコな材料」で作られたこの住宅は、これから先も家族の要求に答え続けることが出来ます。

現代の住宅の寿命は、わずか二十年程度の短命です。人の暮らしも同じで、少子化や核家族化がさらに進行し、家族としての寿命が極端に短くなっています。少子前の住宅や家族は、二世帯・三世帯家族があたり前になり、兄弟も、6人は当然でした。住宅についても親から子から孫に代々引き継がれ、柱の傷の思い出や記憶と共に、長寿住宅として存在していました。今回の計画案は家族の変化に対応することの出来る、極太の木材で造られた長寿住宅の提案です。また、家族が増えたら「部屋を増築」、仲間が増えたら「家を増築」して一緒に暮らすことが出来る木材を使用した「エコ」な生活空間の提案です。

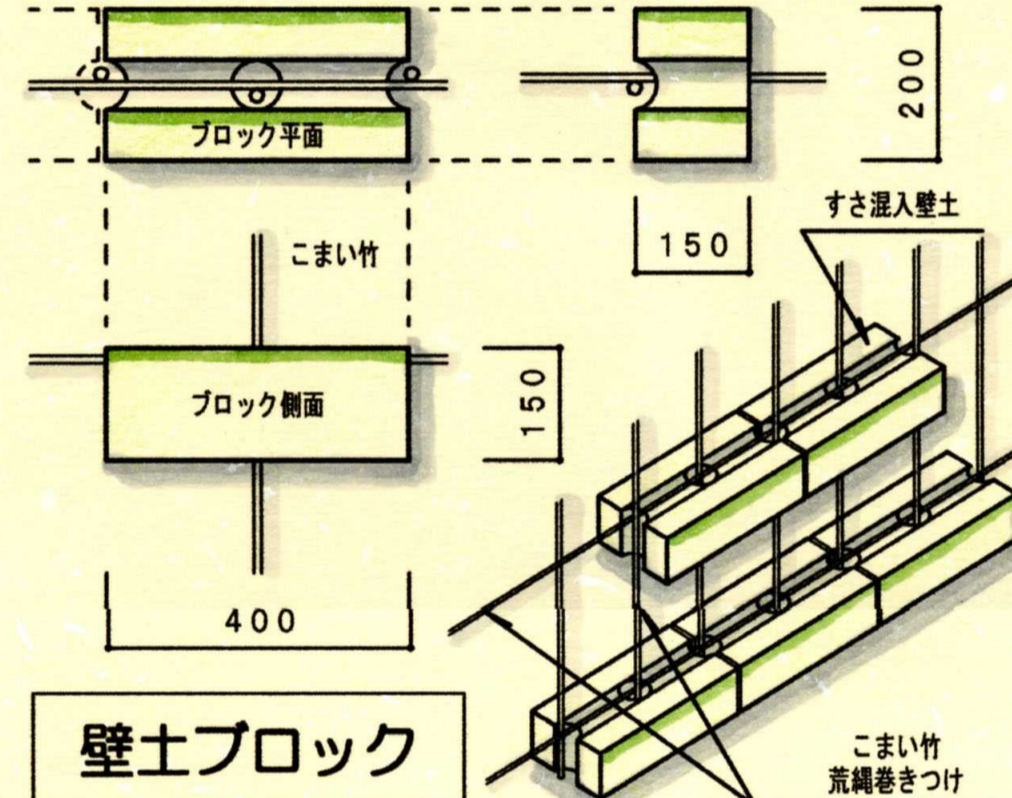
LEDハウス

長寿命。省エネ。次の時代のスタンダード。

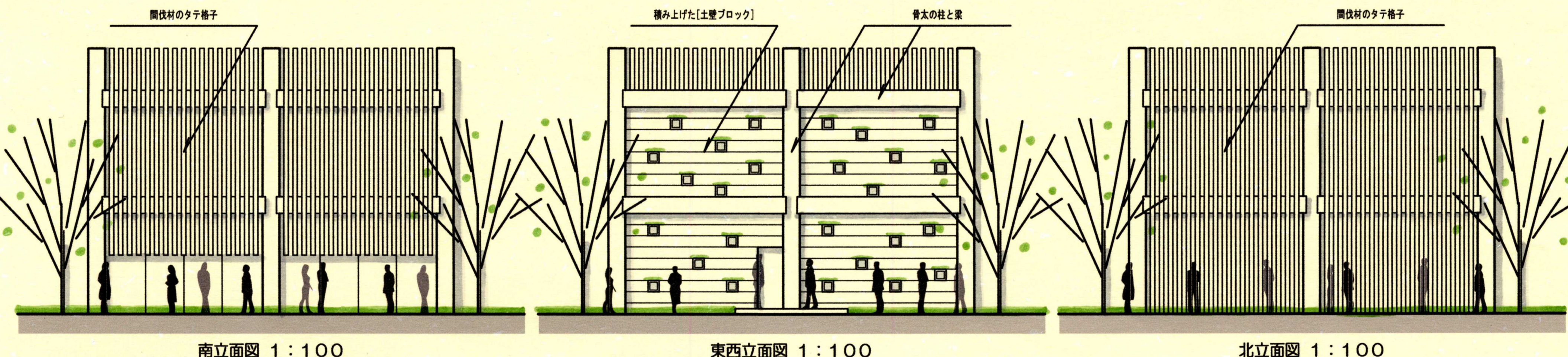
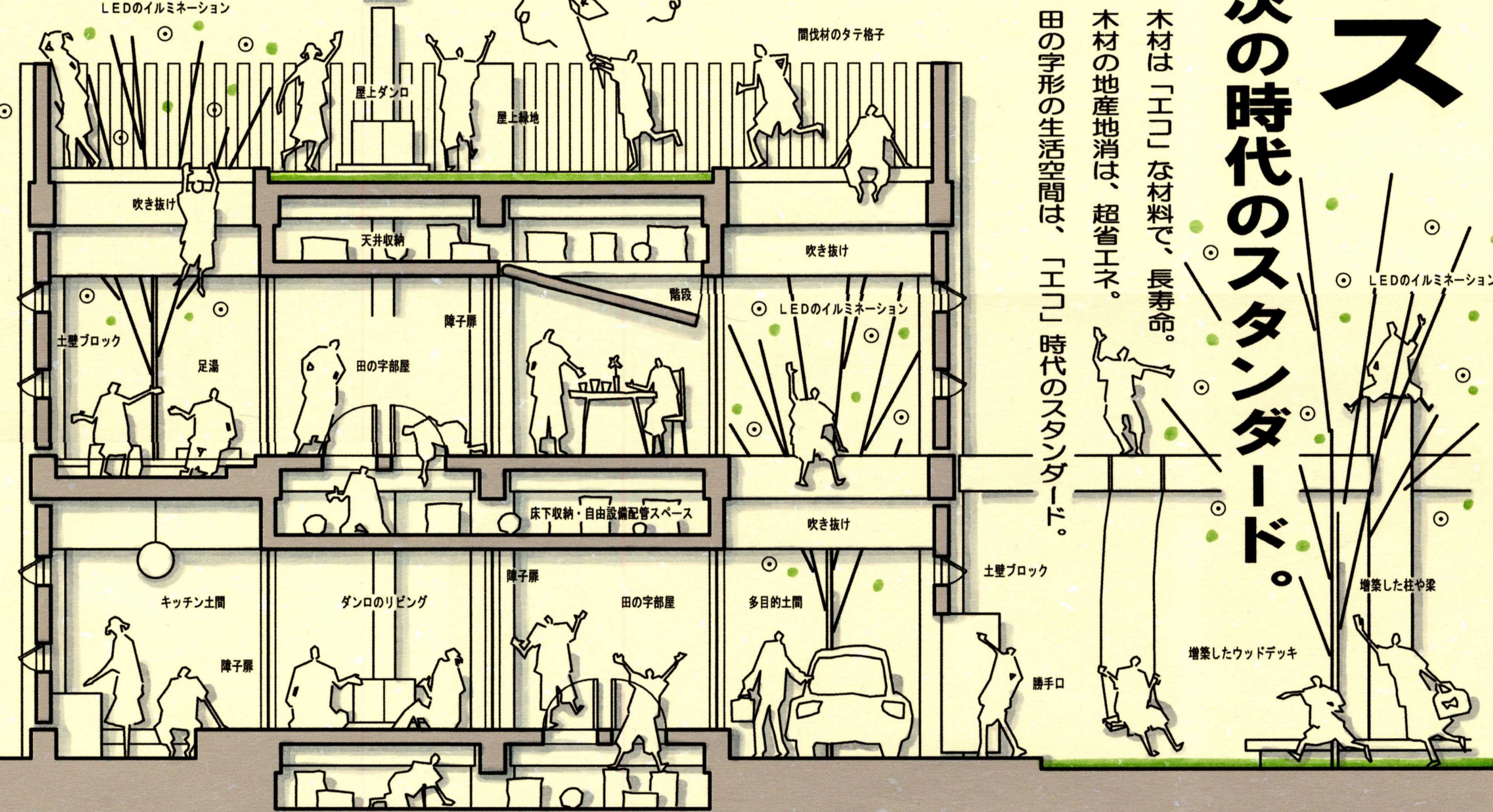
木材は「エコ」な材料で、長寿命。
木材の地産地消は、超省エネ。
田の字形の生活空間は、「エコ」時代のスタンダード。



第5回 秋田県立大学 高校生建築提案コンテスト
2011年度課題 「エコ」な材料と生活空間。



もともと土壁は、地域の身近な材料だけでできる、ごく当たり前の建築パーツでした。防火性能もあり、耐震強度も期待できる優れた構造体です。最近では、温熱環境などへの有効な素材として評価もされ始め、多機能な性能を持ったオールマイティで自然環境にやさしい「エコ」な建築材料の一つです。今回の計画では、従来の土壁を「壁土ブロック」として進化させ、材料面と施工面の両方について「エコ」な材料を提案します。



「田」の字形の間取りでは、近年「一般住宅事情では実施が難しい結婚式やお葬式などの冠婚葬祭を自分の家屋内で行うことが出来ます。この住宅では、障子やフスマなどの道具を開閉するだけで、隣室を含めた大空間を容易につくり出すことが可能です。また、床下には大収納を兼ねた設備配管スペースがあり、キッチンやトイレなどの水廻りの設備を自由に移動可能です。この住宅は、家族の変化や要望に対応できる「様々な地域の祭りや行事などの「ハレ」と「ケ」の空間に対応できる」後の「エコな能力」を備えています。

